

リベラル鈴鹿 平野 泰治 議員

鈴鹿亀山地区広域連合の解散について

(質問) 地域包括ケアシステムの構築、さらには、これを深化させた地域共生社会づくりを目指し、介護施策とまちづくり施策を一体化し「我が事・丸ごと」の取り組みが求められているが、介護施策が広域連合では対応できない。全国の介護保険者1,571団体のうち、広域連合は27団体にとどまり、他は市町村

が単独で運営している。鈴鹿市でも広域連合を解散し、自己責任で単独運営すべき。

(答弁) 指摘のとおり、介護保険においては、地域包括ケアシステムなど制度創設からの変化に課題認識を持っている。広域連合は自治法上、本市とは別の特別地方公共団体で全国的に活用も限定的であり、行政改革の面において、必ずしもコスト縮減につながるものではないが、これまでの経緯を踏まえ広域連合と連携を図りつつ、新たな広域連携も研究していくこととしたい。

新緑風会 山口 善之 議員

市立幼稚園のクーラー設置について

(質問) 市立幼稚園のクーラーが設置されていないため園児の健康状態が心配である。幼児は汗腺をはじめとした体温調整能力が未発達のため、大変危険な状況であり、このような環境の下で、何らかの事故が起きてからでは遅いと思う。早急な設置を求める。

(答弁) 現在、公立幼稚園は11園が開園して

おり、全ての遊戯室と職員室に空調が設置されている。保育室は、全11園で31部屋あり、そのうち2園の3部屋のみに設置されている。

この夏の猛暑への対応としては、熱中症対策として細心の注意を払うよう周知をし、細やかな健康管理に努めた。

今後については、園児の安全確保からも、クーラー設置の必要性は強く感じており、設置に向けて検討を進めていく。

その他の質問 ○危機管理型水位計について

市民クラブ 市川 哲夫 議員

通学路の安全性について

(質問) 通学路には構築物の劣化や運転手による事故などさまざまな危険が潜んでいる。ハード面の整備だけで安全性が保たれているわけではなく、登下校時に見られる地域、先生方の見守りがあってこそ、子どもたちは安心して通学できている。市としてさまざまな対応、対策をしていると思うが、あらためて

通学路の安全確保について問う。

(答弁) 本市では教育委員会、県・市の道路管理者、鈴鹿警察署が連携し通学路の総合的な安全対策の基本方針を定める「鈴鹿市通学路交通安全プログラム」を平成24年度に策定し、通学路の安全対策を図っている。交通安全プログラムに基づいた危険箇所点検は、危険箇所の抽出を行い、その後、協議および点検を実施している。通学路の安全確保に向けた危険箇所の改善には、関係機関が連携し、継続的に実施していくことが重要である。

自由民主党 鈴鹿市議団 矢野 仁志 議員

津波の遡上対策について

(質問) 東日本大震災では、津波により海水が下水管を遡上し、マンホール蓋が飛散し、非常に危険であったとのことであった。本市のマンホール蓋の安全対策について尋ねる。

(答弁) 本市が設置しているマンホール蓋は、日本下水道協会により型式指定された下水道用のマンホール鋳鉄蓋を使用し、開閉操

作時に逸脱しにくく飛散を最小限に抑える構造になっており、これまで豪雨による浸水被害を受けた地域からのマンホール蓋の飛散の被害報告は受けていない。

マンホール蓋飛散の被害はないが、想定外の力により被害が発生する可能性も残っていることから十分検証していく必要があると考え、先進地への聞き取り、被害事例や研究事例を参考に被害のメカニズムの解明や対策を調査研究していく。

その他の質問 ○働き方改革関連法